



神奈川県

KANAGAWA

## 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における自殺の状況

2021年12月

神奈川県

1	2020(令和2)年の自殺の概況の見える化	
(1)	全体概況	4
(2)	男性の概況	26
(3)	女性の概況	42
(4)	著名人の自殺及び自殺報道の影響	58
2	女性の自殺者の増加	64
3	学生・生徒等の自殺者の増加	83
4	【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況	92

付録

- i 年齢階級別自殺者数の状況
- ii 他県と比較した本県の自殺者数の状況
- iii 自殺対策に関する参考統計資料

## はじめに

- 本県においては、自殺者数が近年減少傾向を続けていたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した2020(令和2)年は大きく増加した。
- 本県では、「かながわ自殺対策計画(2018年度～2022年度)」に基づく様々な取組のほか、コロナ禍における自殺対策として、こころの相談窓口の拡充や、相談につなげるための普及啓発の強化、ゲートキーパーの育成等の取組を進めてきたが、今後一層、対策を強化するためには、本県の自殺の状況の詳細な把握と、それに基づく効果的な対策の検討が必要である。
- そこで、このたび、2020年の自殺者の増加の状況や要因について、警察庁の自殺統計を活用し、詳細分析を行った。
- なお、分析は2020年の自殺者で特徴的な以下の点について行った。
  - 1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化
  - 2 女性の自殺者の増加
  - 3 学生・生徒等の自殺者の増加
- さらに、コロナ禍におけるこころの相談状況について、SNS相談実績を集計することにより把握した。

### 【利用上の注意】

- 文中、警察庁「自殺統計」とは、神奈川県警察本部から提供された自殺統計原票に基づく集計データを指す。
- 特に注釈のない限り、自殺統計のうち神奈川県分の発見日・発見地集計を利用している。
- ただし、1年を12か月で分けて月別自殺者の特徴をみる際には、自殺月で集計している。また、上半期・下半期に区分した際も自殺月で集計している。いずれも、年齢は発見日年齢で集計している。
- 年区分は、1月1日から12月31日までの暦年集計である。また、1月～6月を上半期、7月～12月を下半期としている。
- 2020年の状況を分析するために、自殺統計の多くのデータを2020年と過去5年平均値や過去10年平均値と比較している。過去5年平均は、2015年～2019年の実数を単純平均したものであり、また、過去10年平均を用いている場合は、2011年～2019年の実数を単純平均したものである。
- 図表表記の際に、平均した値に小数がある場合は、表記単位未満を四捨五入して表記している。そのため、構成比の合計が100%とならない場合がある。
- 計数が小さい項目は、増減や増減率が大きく変動する可能性があることや偶然である可能性を否定できないことに留意が必要である。
- 本稿では、自殺統計の職業分類を右図のとおり整理して掲載している。無職者のうち「その他無職者」は主婦と失業者以外の者とし、また、学生・生徒等は無職者に含めていない。

職業分類	
有職者	自営業・家族従業者
	被雇用者・勤め人
無職者	主婦
	失業者
	その他無職者
	学生・生徒等
	不詳

## 1 (1) 全体概況

### 1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化

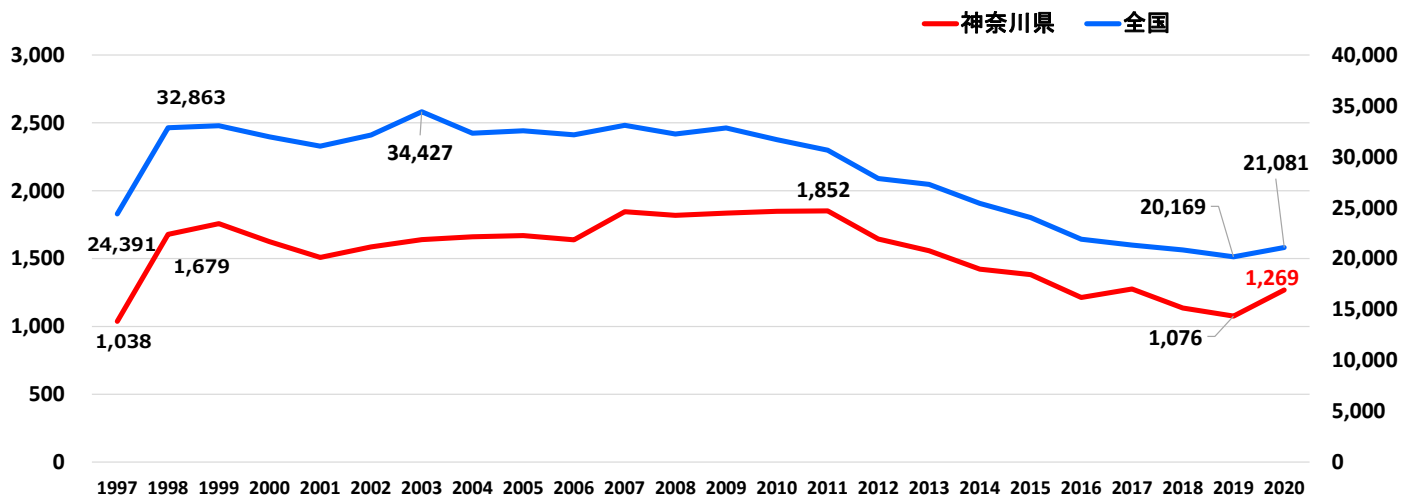
#### (1) 全体概況

図表11-01

自殺者数の推移(神奈川県と全国の推移)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)全国は右軸

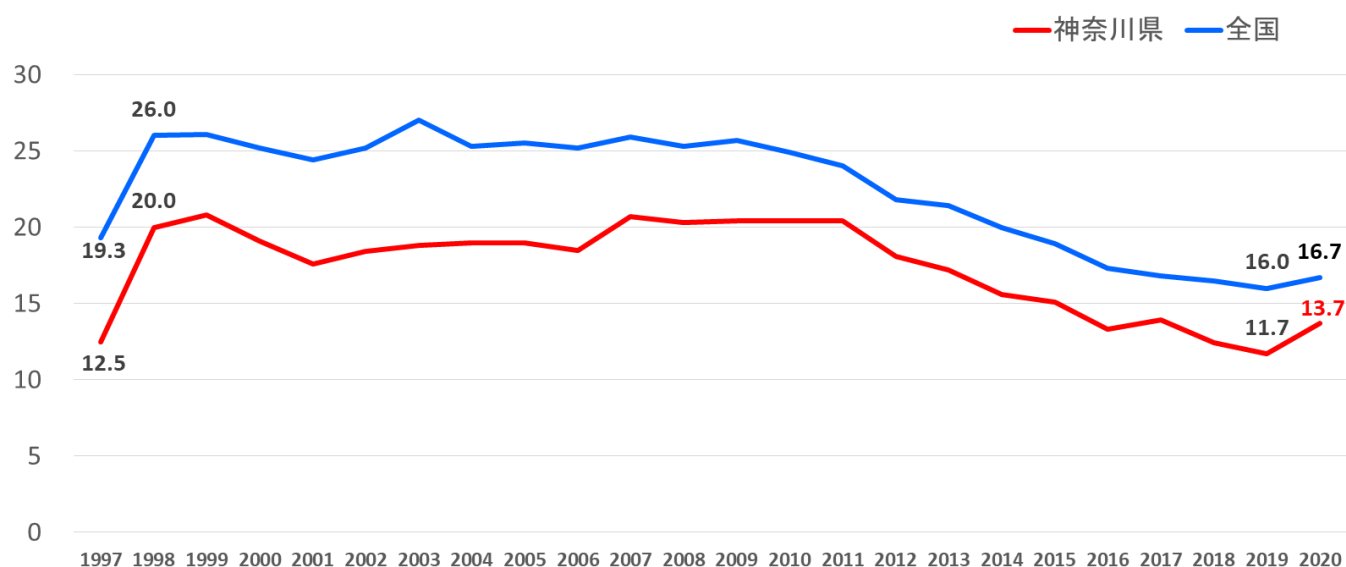
- 本県の自殺者数は、全国の動向と同様に、1997年から1998年に急増し、1,038人から1,679人と、1年で641人(61.8%)の増加となった。
- その後、2007年から1,800人台で推移し、2011年は、2007年以降最も多い1,852人となったが、2012年以降は減少傾向となり、2019年は1,076人と、1997年以降2番目に少ない人数となった。
- 2020年は前年より193人(17.9%)増加し、1,269人となった。

図表11-02

## 自殺死亡率の推移(神奈川県と全国の推移)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺死亡者数。

死亡率の算出に用いた人口は、国勢調査実施年は総務省国勢調査人口等基本集計結果、それ以外は総務省人口推計年報(各年10月1日現在)による。2020年は令和2年国勢調査結果(令和3年11月30日公表)による。

- 本県の人口10万人当たりの自殺者数(以下「自殺死亡率」という。)の推移については、全国の動向と同様に、1997年から1998年に急増し、12.5から20.0と1年で7.5ポイント上昇した。
- その後、2012年以降低下傾向となり、2019年は11.7と、1997年以降最小となったが、2020年は前年より2.0ポイント上昇し、13.7となった。

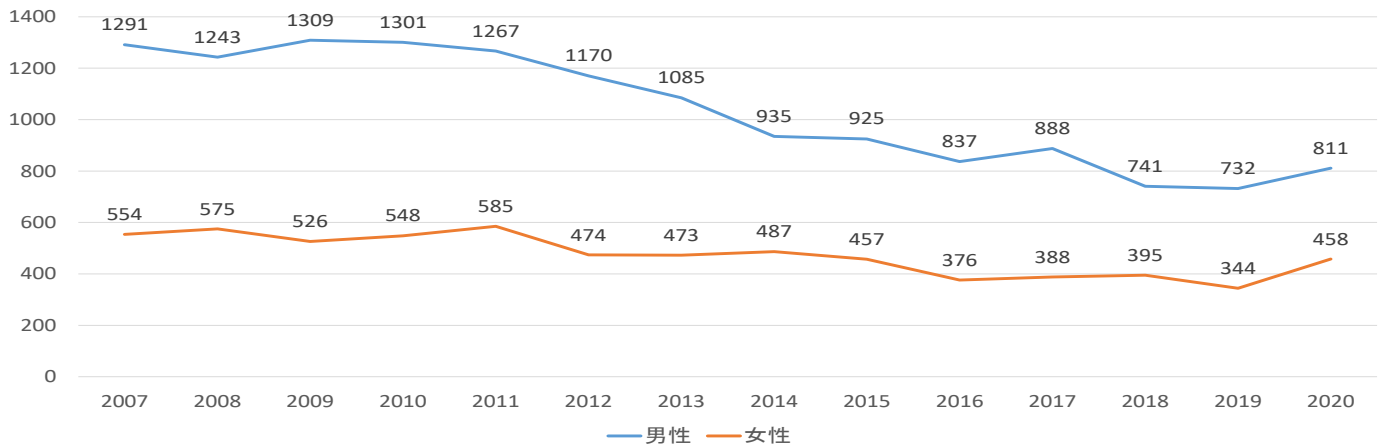
## 1 (1) 全体概況

図表11-03

男女別自殺者数の推移(2007年~2020年)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



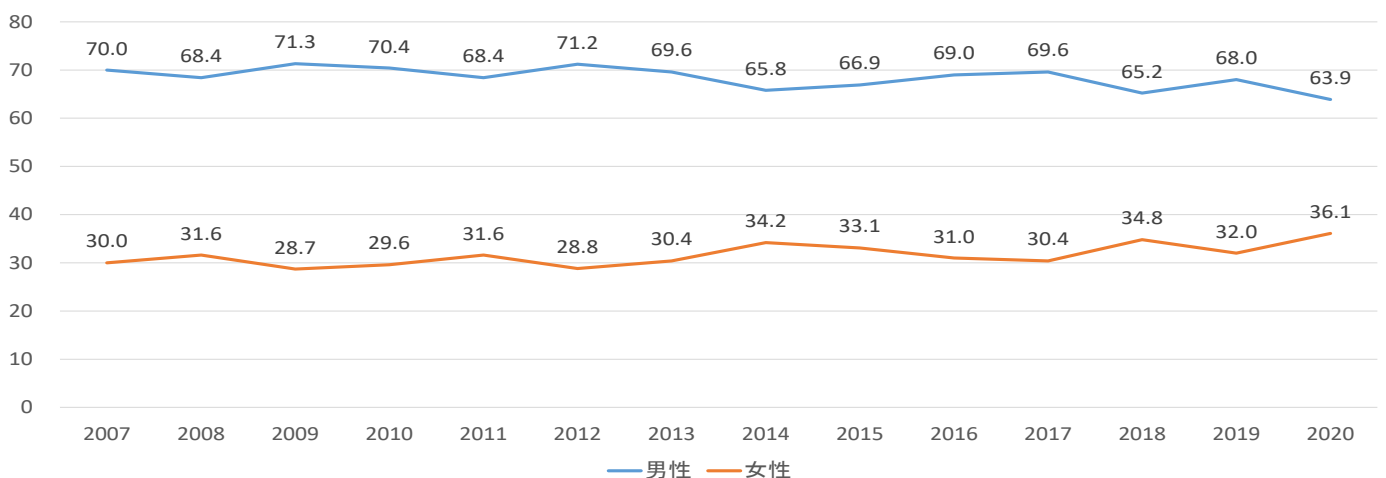
- 男女別自殺者数の推移をみると、男性の自殺者数は、2007年以降、2009年が最多で1,309人、2019年が最少で732人であり、この間、577人と、大きく減少したが、2020年は前年比で79人(10.8%)増加し、811人となった。
- 女性の自殺者数は、2007年~2011年が500人台、2012年~2015年が400人台で推移し、2016年~2019年が300人台となったが、2020年は前年比で114人(33.1%)増加し、458人となった。

図表11-04

男女別自殺者数の構成比の推移(2007年~2020年)

単位:%

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

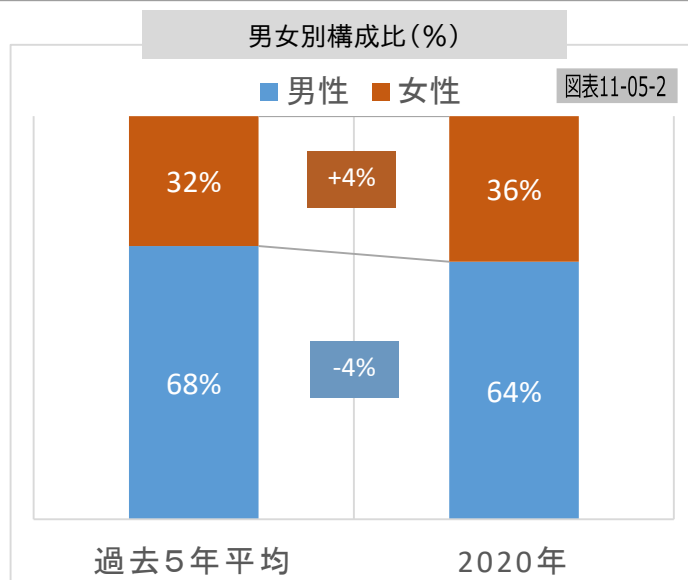
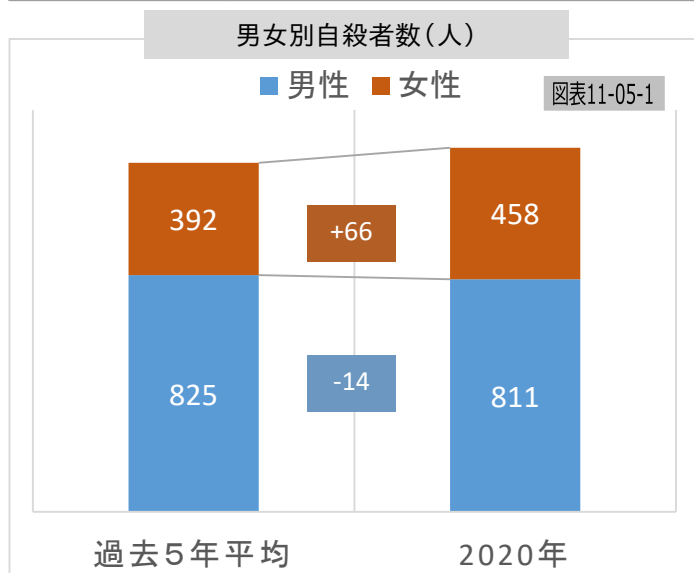


- 自殺者数の男女別構成比は、おおむね男性が7割、女性が3割の比率で推移してきたが、2020年は、女性の比率が上昇し、36.1%と2007年以降最大となった。

図表11-05

男女別自殺者数の比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



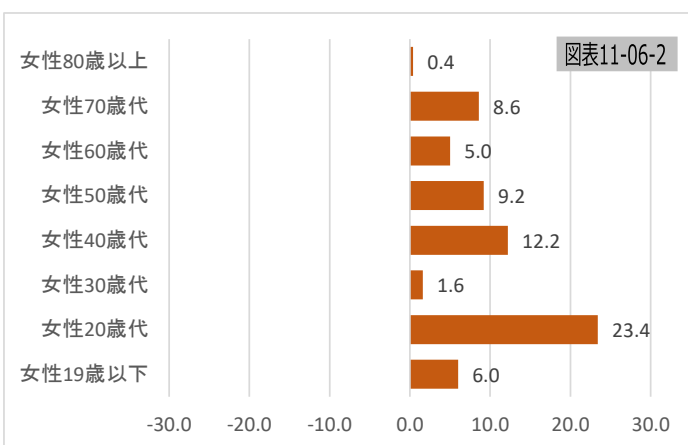
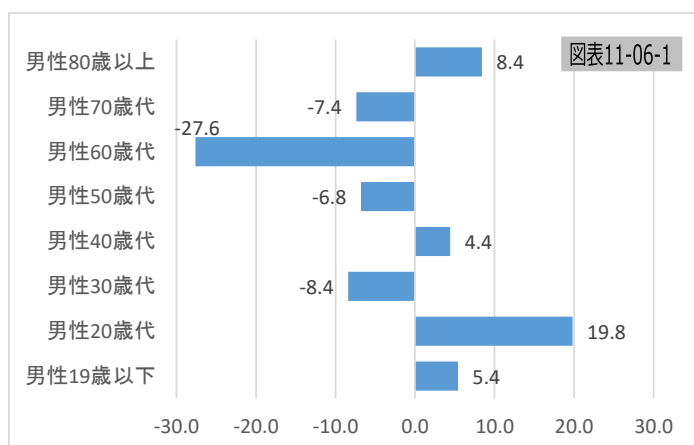
- 男女別自殺者数を過去5年平均と比較すると、2020年は、男性は14人の減少、女性は66人の増加であり、総数では52人増加した(図表11-05-1)。
- また、男女別構成比では、過去5年平均と比較して、2020年は女性の比率が4ポイント上昇した(図表11-05-2)。

図表11-06

男女別、年齢階級別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳は除外している。

- 2020年の年齢階級別自殺者数を過去5年平均と比較すると、男性は4区分で増加し、4区分で減少した。最も増加した区分は「20歳代」で19.8人の増加、また、最も減少した区分は「60歳代」で27.6人の減少となった(図表11-06-1)。
- 女性は、「20歳代」で最も増加し、23.4人の増加、次いで、「40歳代」で12.2人の増加となるなど、すべての区分で増加となった(図表11-06-2)。

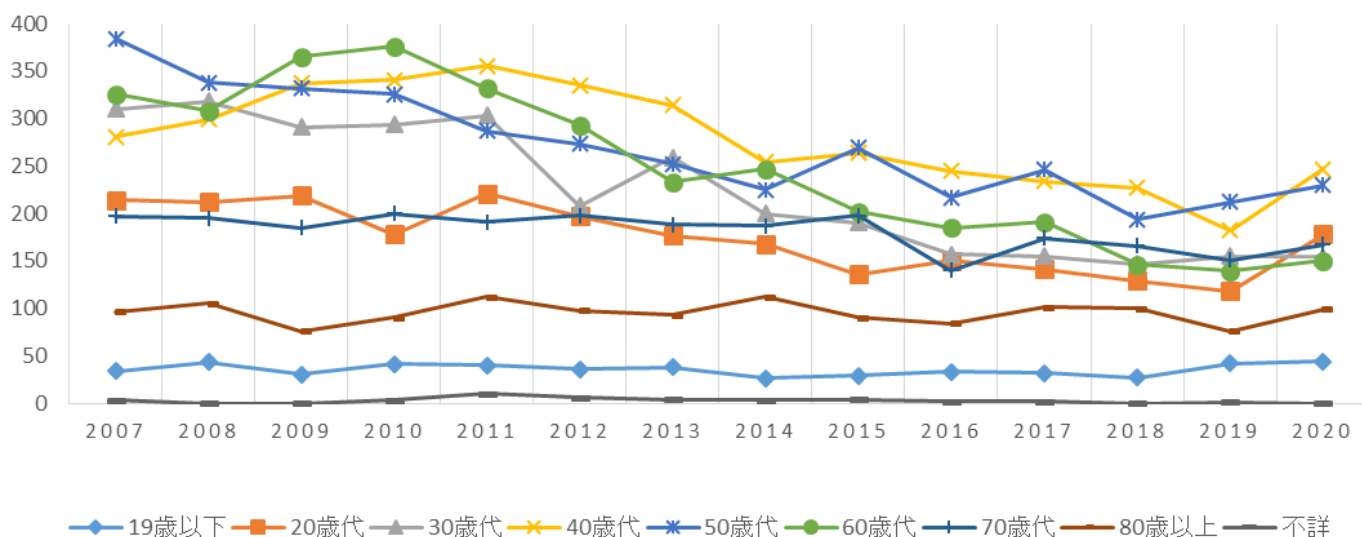
# 1 (1) 全体概況

図表11-07

年齢階級別自殺者数の推移(2007年~2020年)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



- 年齢階級別自殺者数の推移をみると、2007年以降、「20歳代~70歳代」はおおむね減少傾向、「19歳以下」と「80歳以上」はほぼ横ばいで推移してきたが、2020年は、「30歳代」を除くすべての年代で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「40歳代」と「20歳代」であった。

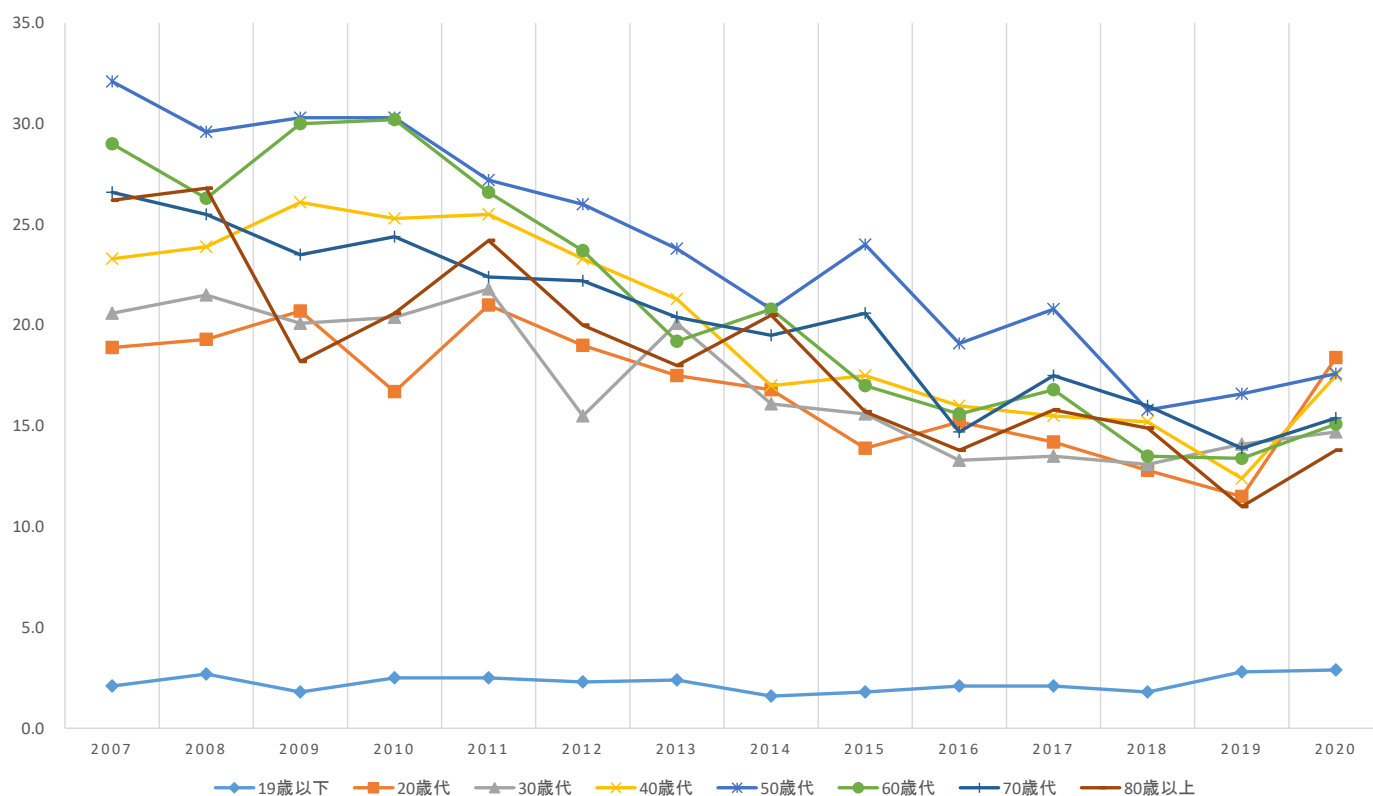


図表11-08

年齢階級別自殺死亡率の推移(2007年~2020年)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺死亡率:人口10万人当たりの自殺死亡者数。

年齢不詳は除外している。

死亡率の算出に用いた人口は、国勢調査実施年は総務省国勢調査人口等基本集計結果、それ以外は総務省人口推計年報(各年10月1日現在)による。2020年は令和2年国勢調査結果(令和3年11月30日公表)による。

- 年齢階級別自殺死亡率の推移をみると、2007年以降、「19歳以下」は、ほぼ横ばいで推移し、その他の年代はおおむね減少傾向であったが、2020年は、「19歳以下」を除くすべての年代で前年より増加した。
- 前年比で特に増加が大きかったのは、「20歳代」と「40歳代」であった。

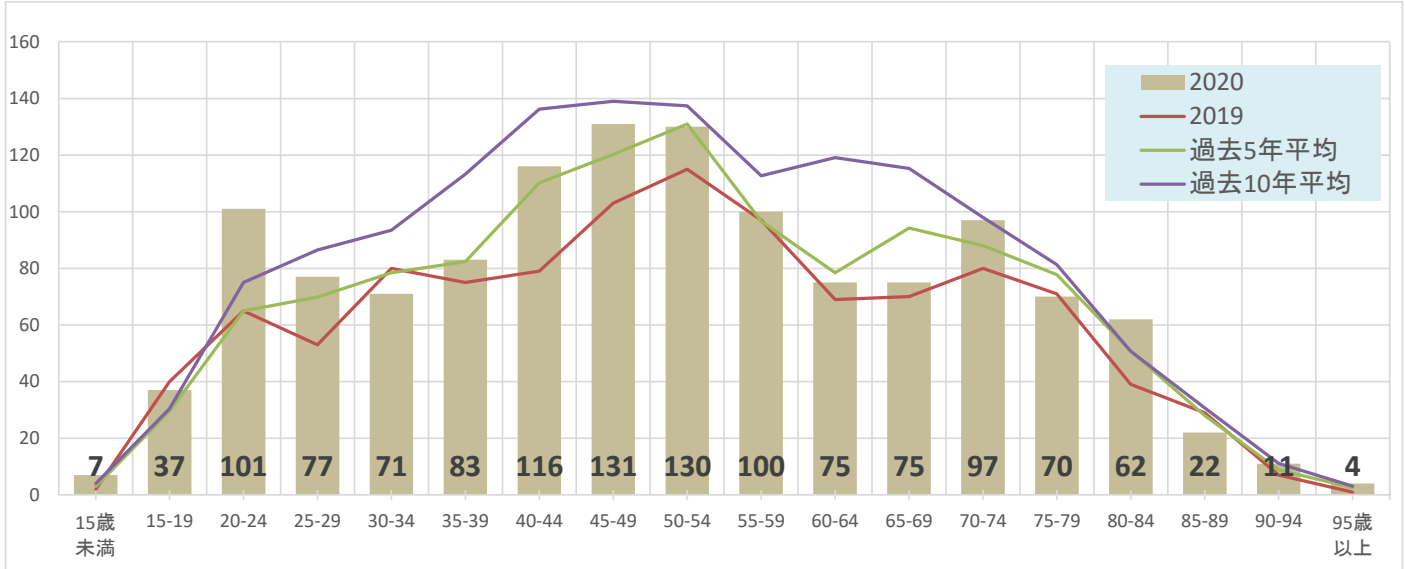
# 1 (1) 全体概況

図表11-09

年齢階級別自殺者数(2020年と過去5年・10年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳は除外している。

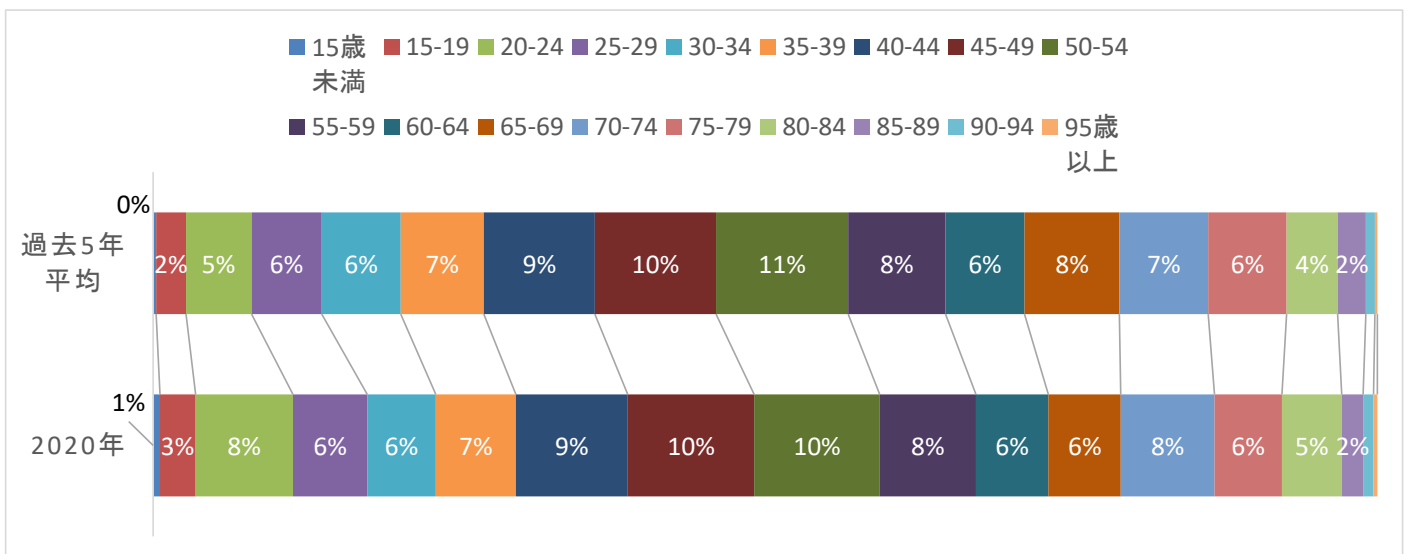
- 2020年の自殺者数(男女計)について、年齢階級別で見ると、「50歳代前後」が最も多く、この階級を中心に山型になっている。また、「20歳代」、「70歳代」と3つの山が見られる。
- 特に「20歳代前半」が、過去10年平均、過去5年平均を大きく上回っていることが特徴的である。

図表11-10

年齢階級別自殺者数の構成比(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 年齢不詳は除外している。

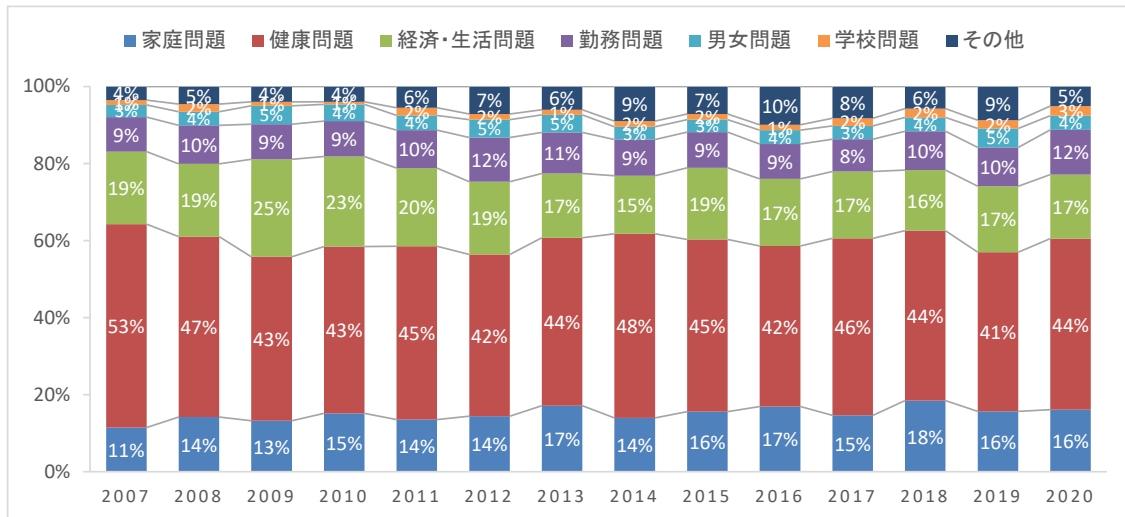
- 2020年の年齢階級別自殺者数の構成比を過去5年平均と比較すると、「20～24歳」が3ポイントと最も上昇した。

図表11-11

原因・動機別自殺者数の構成比の推移(2007年～2020年)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

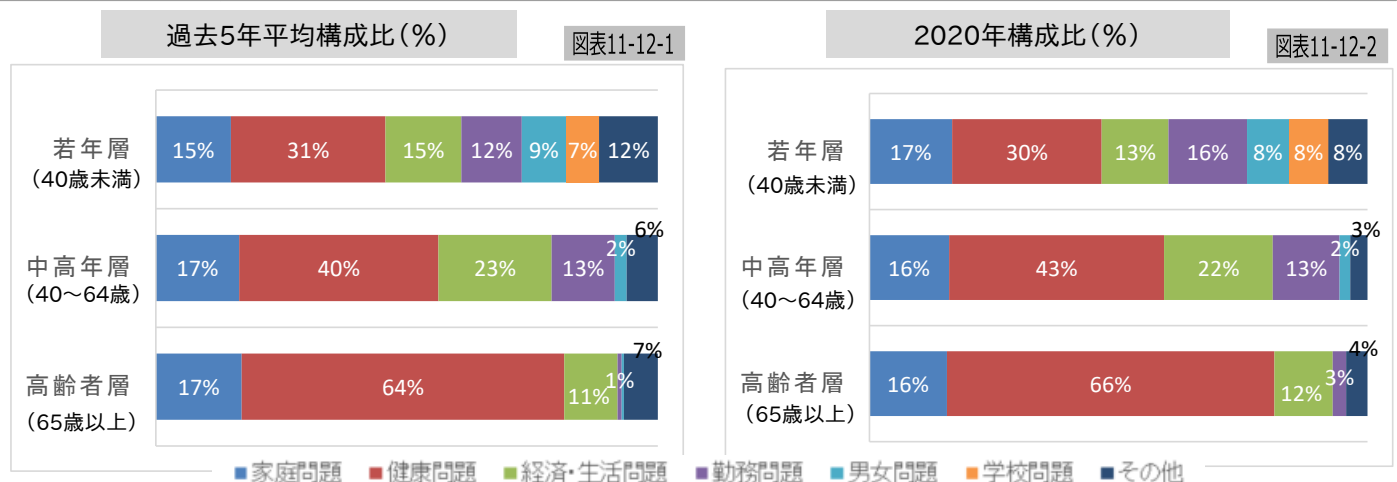
- 原因・動機別構成比の推移をみると、最も多い「健康問題」は2008年以降40%台で推移しており、次いで、「経済・生活問題」が15～25%、「家庭問題」が10%台、「勤務問題」が8～12%で推移している。2020年は「勤務問題」が12%で、例年と比較して、高水準となっている。

図表11-12

年齢階級別、原因・動機別自殺者数の構成比比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)年齢不詳、原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 年齢階級別に原因・動機別構成比を過去5年平均と比較すると、2020年は「若年層」では、「勤務問題」が4ポイントと最も上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。
- 「中高年層」では、「健康問題」が3ポイントと最も上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。
- 「高齢者層」では、「健康問題」と「勤務問題」が2ポイントずつ上昇した(図表11-12-1,図表11-12-2)。

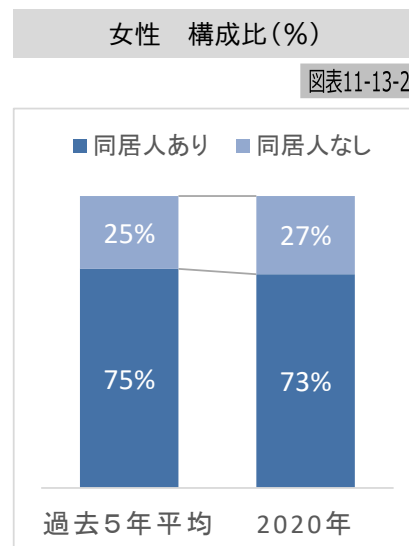
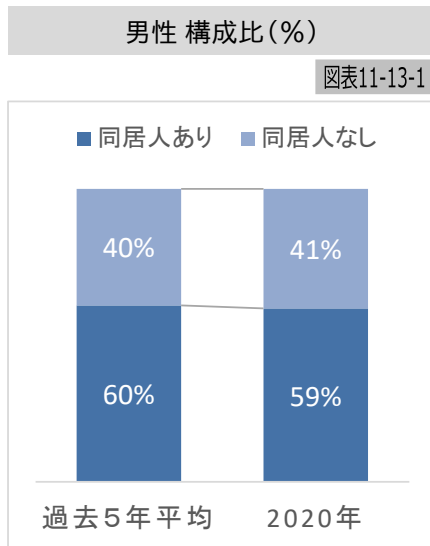
# 1 (1) 全体概況

図表11-13

男女別、同居人の有無別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

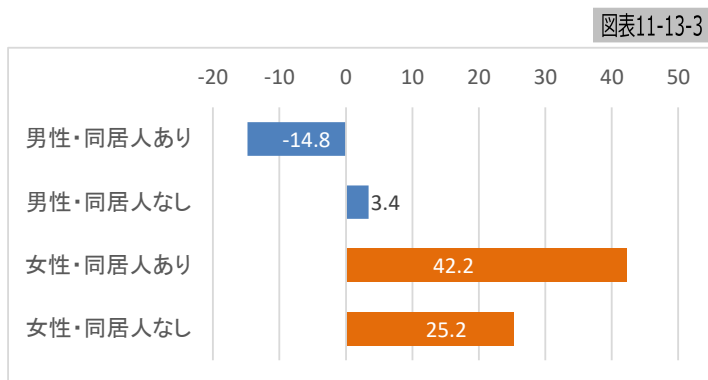
(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

## 同居人の有無別自殺者の構成比比較



注)男女とも同居人の有無の「不詳」の構成比は1%未満。

## 同居人の有無別自殺者数増減比較



図表11-13-4

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	同居人あり	492.8	478	-14.8	-3%
	同居人なし	325.6	329	3.4	1%
女性	同居人あり	292.8	335	42.2	14%
	同居人なし	97.8	123	25.2	26%

注)同居人不詳は除外している。

- 男女別・同居人の有無別自殺者数の構成比を過去5年平均でみると、男性の「同居人あり」は60%で、「同居人なし」が40%である。2020年は、過去5年平均と比べて、「同居人なし」が1ポイント上昇した(図表11-13-1)。
- 女性は、過去5年平均では、「同居人あり」が75%で、「同居人なし」が25%である。2020年は、過去5年平均と比べて、「同居人なし」が2ポイント上昇した(図表11-13-2)。
- なお、過去5年平均と自殺者数で比較すると、2020年は、男性は「同居人あり」が14.8人の減少、「同居人なし」が3.4人の増加となったが、女性は「同居人あり」「同居人なし」がそれぞれ42.2人、25.2人と、ともに増加した(図表11-13-3,図表11-13-4)。

図表11-14

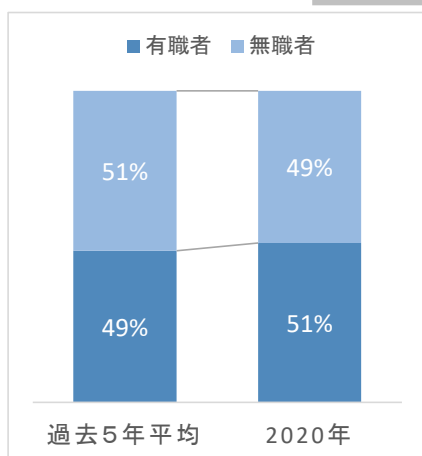
## 男女別、職業有無別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

## 職業有無別自殺者の構成比比較

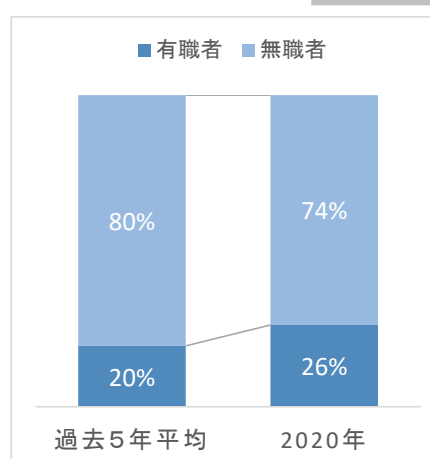
男性 構成比 (%)

図表11-14-1



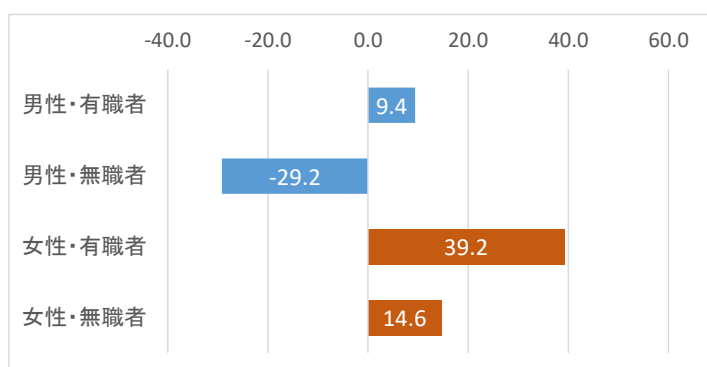
女性 構成比 (%)

図表11-14-2



## 職業有無別自殺者数増減比較

図表11-14-3



図表11-14-4

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	有職者	374.6	384	9.4	3%
	無職者	395.2	366	-29.2	-7%
女性	有職者	72.8	112	39.2	54%
	無職者	299.4	314	14.6	5%

注)職業不詳は除外している。

- 男女別・職業有無別自殺者数の構成比を過去5年平均で見ると、男性の「有職者」は49%、「無職者」は51%で、「無職者」の方が比率が高いが、2020年は、過去5年平均と比較して、「有職者」の比率が2ポイント上昇し、「有職者」の方が「無職者」より比率が高くなった(図表11-14-1)。
- 女性の過去5年平均では、「有職者」は20%、「無職者」は80%で、男性と比較して「無職者」の比率が高い。2020年は、過去5年平均と比較して、「有職者」の比率が6ポイントと大きく上昇した(図表11-14-2)。
- なお、過去5年平均と自殺者数で比較すると、2020年は、男性は「有職者」が9.4人増加し、「無職者」が29.2人減少したが、女性は、「有職者」、「無職者」が、それぞれ39.2人、14.6人と大きく増加した。特に、女性の「有職者」の増加が目立った(図表11-14-3,図表11-14-4)。

# 1 (1) 全体概況

図表11-15

## 職業別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

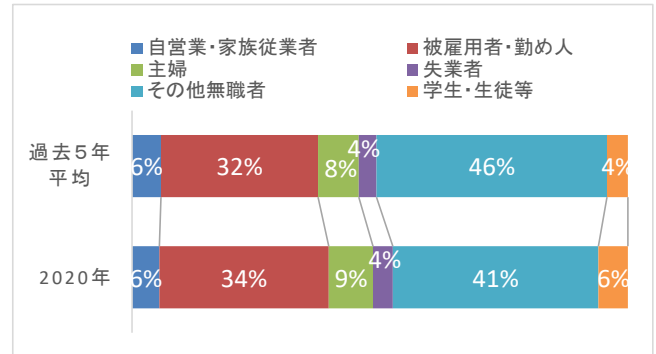
自殺者数(人)

構成比(%)

図表11-15-1

		過去5年平均	2020年	増減数	増減率
有職者	自営業・家族従業者	69.8	69	-0.8	-1%
	被雇用者・勤め人	377.6	427	49.4	13%
無職者	主婦	97.6	112	14.4	15%
	失業者	42.8	50	7.2	17%
	その他無職者	554.2	518	-36.2	-7%
	学生・生徒等	50.4	75	24.6	49%

図表11-15-2



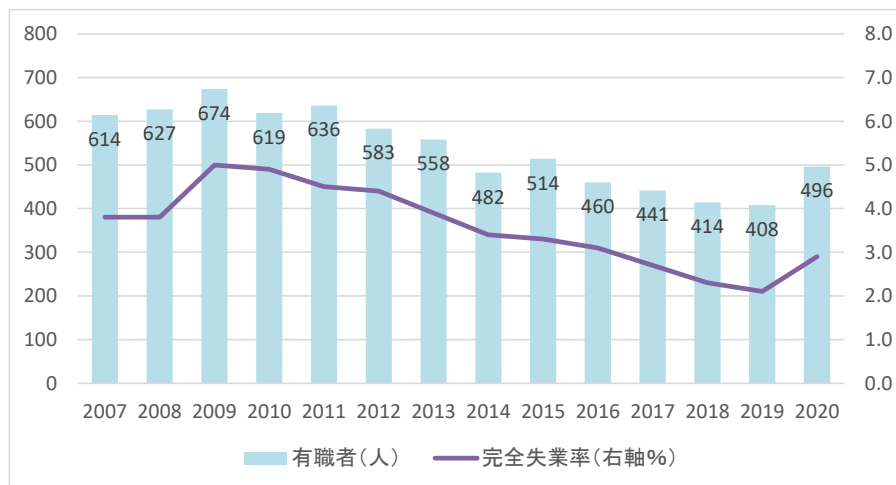
注) 職業不詳は除外している。「その他無職者」は、無職者のうち主婦、失業者を除くもの。

- 2020年の職業別自殺者数をみると、「有職者」では「被雇用者・勤め人」が、「無職者」では、「その他無職者」が最も多くなっている(図表11-15-1)。
- 自殺者数を過去5年平均と比較すると、「有職者」では、「被雇用者・勤め人」が49.4人増と最も増加した。また、「無職者」では、「主婦」が14.4人増と最も増加し、次いで「失業者」が7.2人増となった。また、「学生・生徒等」は24.6人増となった(図表11-15-1)。
- 構成比で見ると、2020年は「被雇用者・勤め人」及び「学生・生徒等」が2ポイント、「主婦」が1ポイント上昇した(図表11-15-2)。

図表11-16

## 参考 完全失業率と自殺者数の関係(2007年~2020年)

(出典:警察庁「自殺統計」、総務省「労働力調査」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注) 完全失業率は総務省労働力調査(モデル推定による都道府県別結果、2021年5月28日改定)の神奈川県・年平均値による。

- 本県の完全失業率と2007年~2020年の有職者自殺者数の推移には比例的な関連性がみられる。(関連性の強さを示す相関係数をみると右図の通りであり、最大値の1に近いため、比例的な強い関連性があるとみられる。)

	相関係数
有職者	0.9295
無職者	0.8918
合計	0.9103

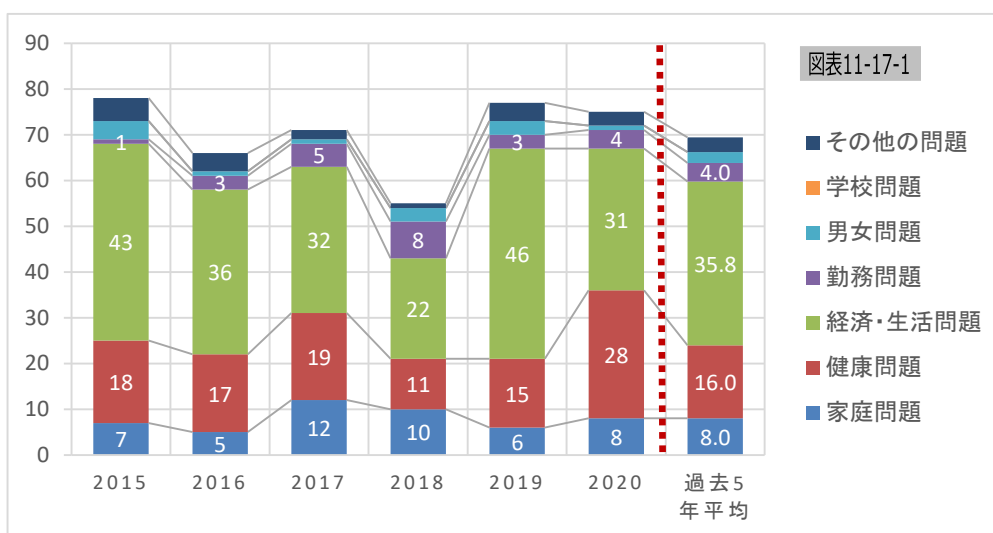
図表11-17

自営業・家族従業者の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

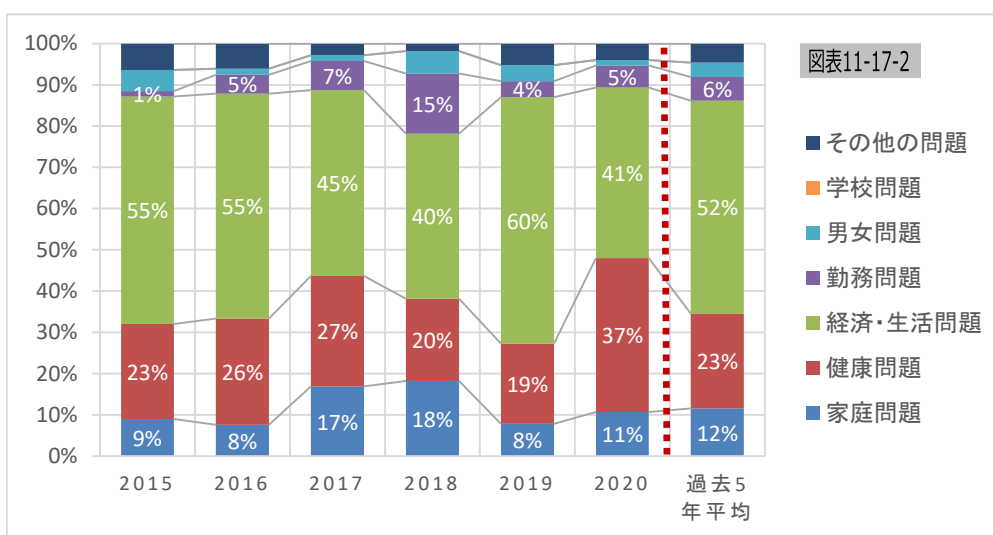
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 職業別の自殺の原因・動機別の自殺者数の状況を見ると、「自営業・家族従業者」では、2020年は、「経済・生活問題」が最も多く、次いで「健康問題」が多かった(図表11-17-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「健康問題」が最も上昇した(図表11-17-2)。

1 (1) 全体概況

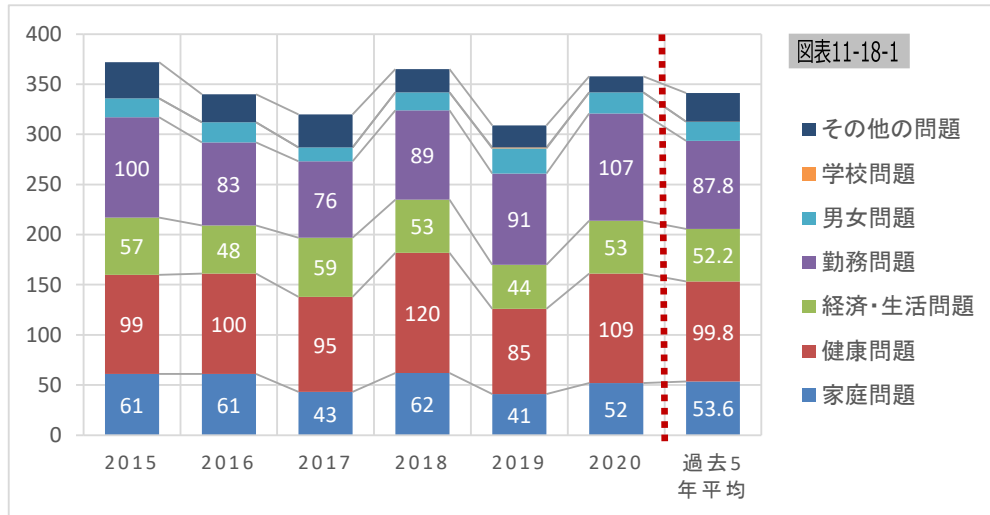
図表11-18

被雇用者・勤め人の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

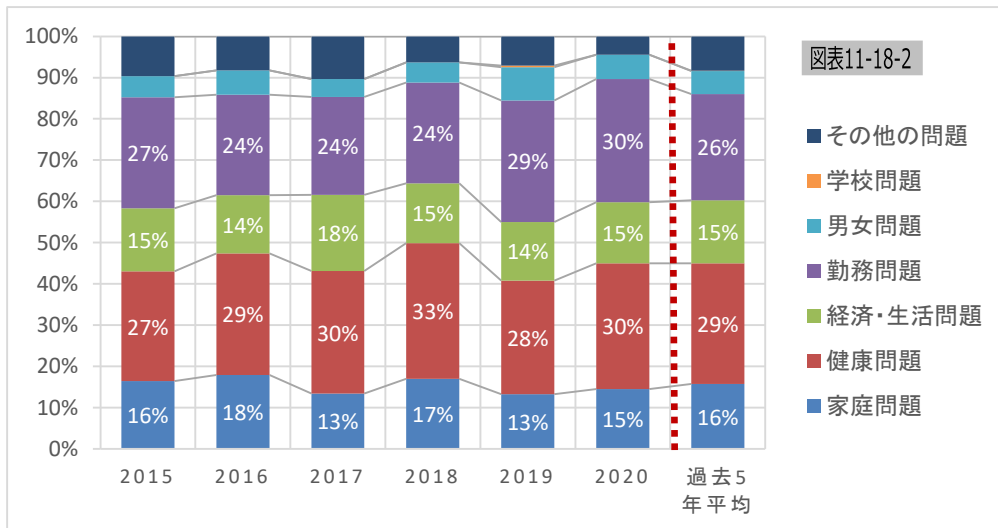
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

- 「被雇用者・勤め人」の原因・動機別自殺者数をみると、2020年は、「健康問題」が最も多く、次いで「勤務問題」が多かった(図表11-18-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「勤務問題」が最も上昇した(図表11-18-2)。



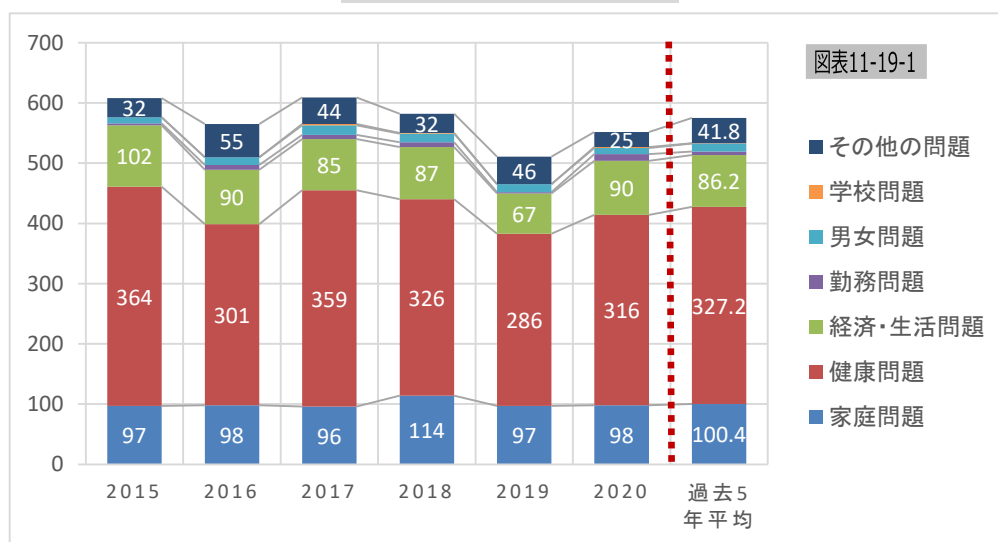
図表11-19

無職者の原因・動機別自殺者数の推移(2020年と過去5年平均との比較)

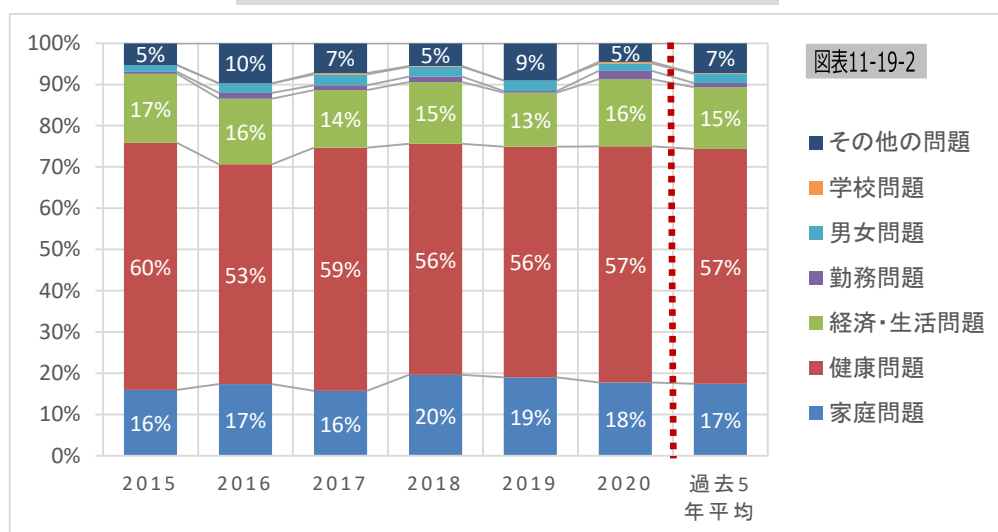
男女計

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数の推移(人)



構成比の推移(%)



注)原因・動機不詳は除外している。原因・動機については、自殺者一人につき最大3つまで計上可能であるため、自殺者数とは異なる。

注)「無職者」には、主婦、失業者、利子・配当・家賃等生活者、年金・雇用保険等生活者、浮浪者、その他の無職者含む。(学生・生徒等は含まない。)

- 「無職者」の原因・動機別自殺者数をみると、2020年は、「健康問題」が最も多く、次いで「家庭問題」が多かった(図表11-19-1)。
- なお、過去5年平均と構成比で比較すると、「家庭問題」と「経済・生活問題」が1ポイントずつ増加した(図表11-19-2)。

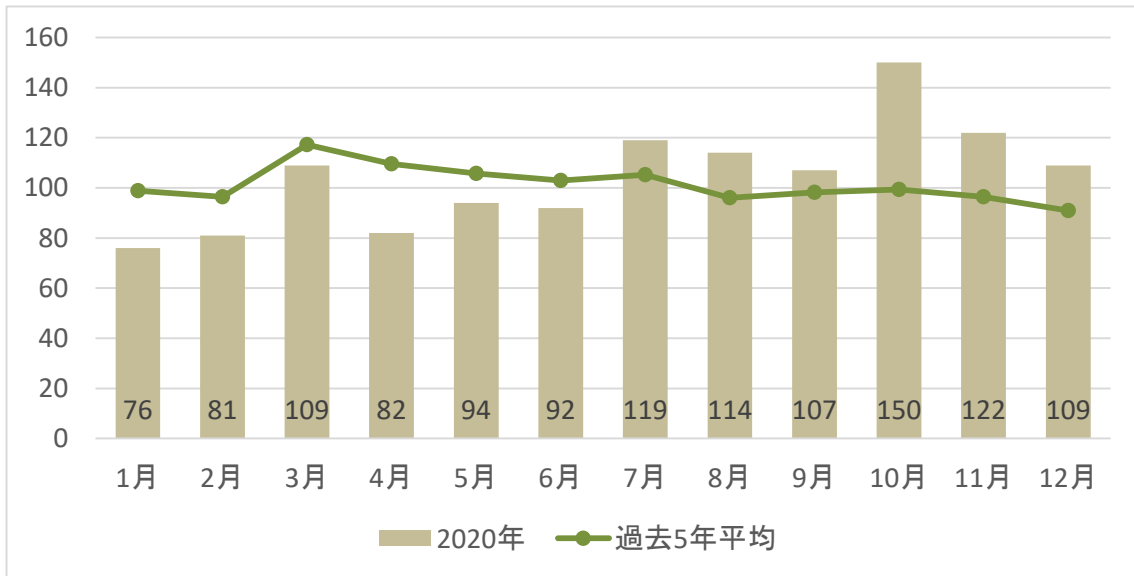
1 (1) 全体概況

図表11-20

月別自殺者数の比較 (2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

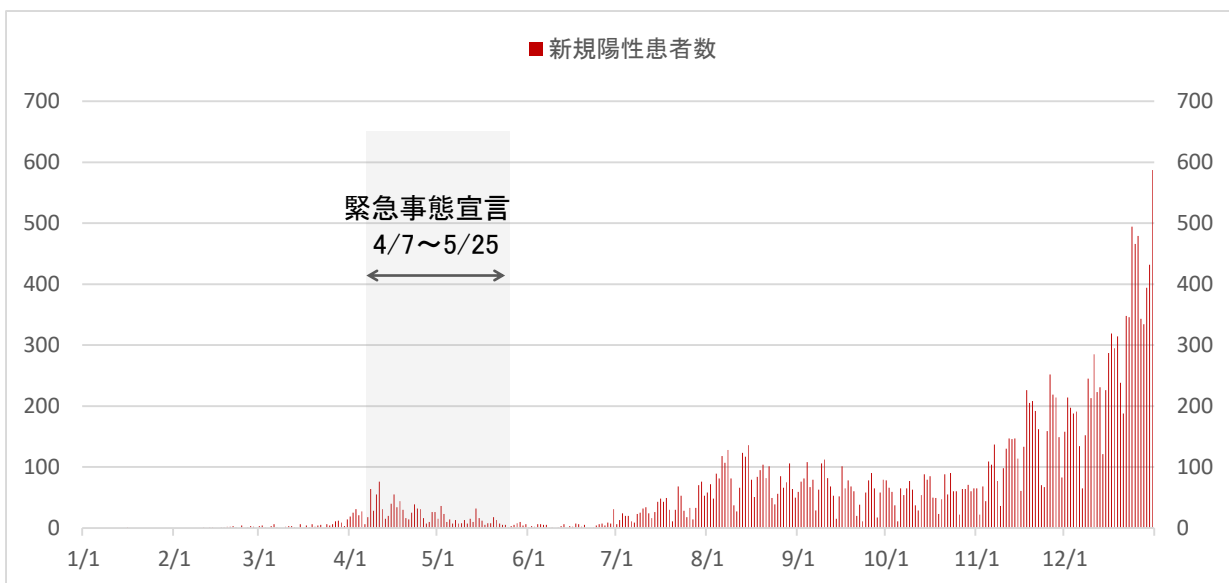
- 2020年における月別の自殺者数の推移をみると、「10月」が最も多く、「1月」が最も少なくなっている。また、過去5年平均の自殺者数を「1～6月」では下回ったが、「7～12月」では上回った。

図表11-21

参考 新型コロナウイルス感染症 新規陽性患者数の状況 (2020年1月1日～12月31日)

男女計 単位:人

(出典:神奈川県がん・疾病対策課作成)



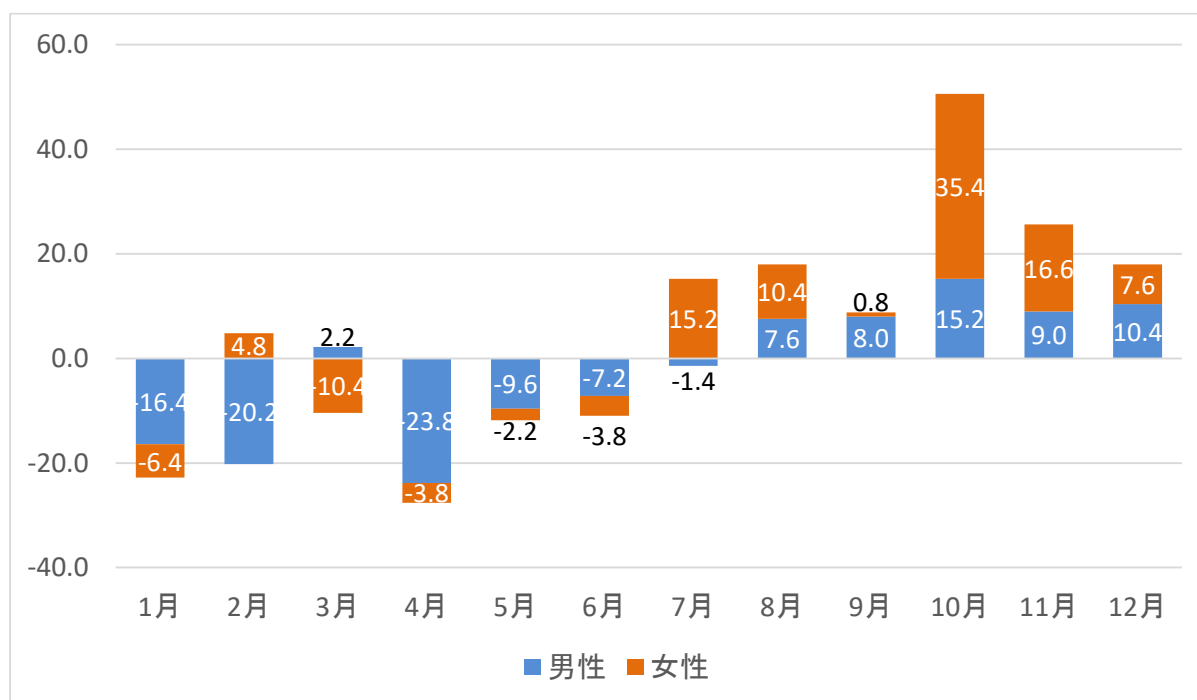
- 2020年の新型コロナウイルス感染症の新規陽性患者の状況と、月別自殺者数の動向には、明らかな相関は見られなかった。

図表11-22

男女別の月別自殺者数の増減比較(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
男性	-16.4	-20.2	2.2	-23.8	-9.6	-7.2	-1.4	7.6	8.0	15.2	9.0	10.4	-26.2
女性	-6.4	4.8	-10.4	-3.8	-2.2	-3.8	15.2	10.4	0.8	35.4	16.6	7.6	64.2
男女計	-22.8	-15.4	-8.2	-27.6	-11.8	-11.0	13.8	18.0	8.8	50.6	25.6	18.0	38.0

注)自殺月で集計している。自殺月不詳は除外している。

- 2020年の月別の自殺者数について過去5年平均と比較すると、「男女計」では「6月」までは過去5年平均を下回ったが、「7月」以降は上回って推移した。
- 「男女計」で最も増加したのは「10月」で50.6人の増、最も減少したのは「4月」で27.6人の減であった。
- また、男女別でみると、男性では、「3月」を除き「7月」まで過去5年平均を下回ったが、「8月」以降は継続して上回り、「10月」には15.2人と急増した。一方、年間では、上半期の減少が下半期の増加を上回ったため、26.2人の減となった。
- 女性では、「2月」を除き「6月」まで過去5年平均を下回ったが、「7月」以降は継続して上回り、「10月」は35.4人と最も増加した。また、年間では、下半期の増加が上半期の減少を上回ったため、64.2人の増となった。

## 1 (1) 全体概況

図表11-23

自殺地の推移(2020年と過去5年平均との比較)

男女計 単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

年	県内で発見			
	計	県内 居住者	県外 居住者	住居 不明
2015年	1,382	1,343	34	5
2016年	1,213	1,168	36	9
2017年	1,276	1,234	40	2
2018年	1,136	1,119	17	0
2019年	1,076	1,047	26	3
2020年	1,269	1,236	31	2
過去5年平均	1,216.6	1,182.2	30.6	3.8

構成比	県内で発見		
	県内 居住者	県外 居住者	住居 不明
100%	97.2%	2.5%	0.4%
100%	96.3%	3.0%	0.7%
100%	96.7%	3.1%	0.2%
100%	98.5%	1.5%	-
100%	97.3%	2.4%	0.3%
100%	97.4%	2.4%	0.2%
100%	97.2%	2.5%	0.3%

- 2020年における県内で発見された自殺者の97.4%が県内居住者であった。過去5年平均においても97.2%であり、大きな差は見られなかった。

図表11-24

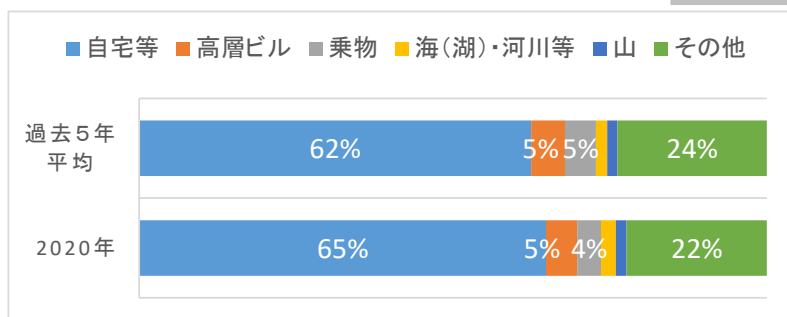
男女別自殺場所の傾向 (2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

## 男性

図表11-24-1



図表11-24-2

(男性 構成比)	過去5年平均	2020年
自宅等	62%	65%
高層ビル	5%	5%
乗物	5%	4%
海(湖)・河川等	2%	2%
山	2%	2%
その他	24%	22%

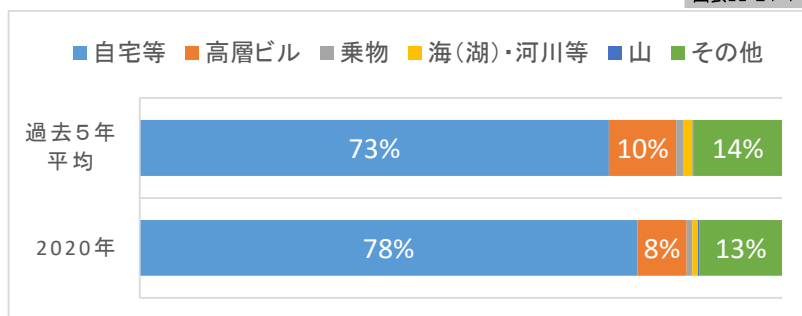
- 「男性」の自殺場所を過去5年平均の構成比で見ると、「自宅等」が62%を占め、次いで、「その他」を除くと「高層ビル」や「乗物」の比率が高い(図表11-24-1,図表11-24-2)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「自宅等」の比率が高くなっている(図表11-24-1,図表11-24-2)。

図表11-24-3

(男性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
自宅等	515	526	11
高層ビル	44.6	40	-4.6
乗物	40.8	31	-9.8
海(湖)・河川等	14.6	19	4.4
山	13.2	14	0.8
その他	196.4	181	-15.4

## 女性

図表11-24-4



図表11-24-5

(女性 構成比)	過去5年平均	2020年
自宅等	73%	78%
高層ビル	10%	8%
乗物	1%	1%
海(湖)・河川等	1%	1%
山	0%	0%
その他	14%	13%

- 「女性」の自殺場所を過去5年平均の構成比で見ると、「自宅等」が73%を占め、次いで、「その他」を除くと「高層ビル」の比率が高い(図表11-24-4,図表11-24-5)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「自宅等」の比率が高くなっている(図表11-24-4,図表11-24-5)。

図表11-24-6

(女性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
自宅等	286.4	355	68.6
高層ビル	41	35	-6
乗物	4.6	4	-0.6
海(湖)・河川等	5.4	4	-1.4
山	0.6	1	0.4
その他	54	59	5

注) 「自宅等」は、下宿・寮を含む。

海(湖)・河川等は、池・沼を含む。「その他」には、次の項目を含む。

学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、駅構内、鉄道線路、路上、公園、社寺境内、田畑、等

# 1 (1) 全体概況

図表11-25

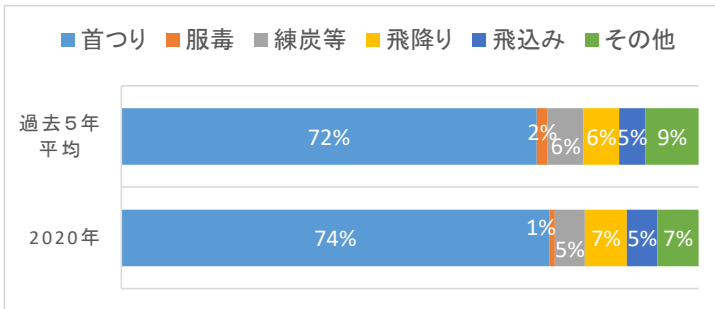
## 男女別自殺の手段の傾向(2020年と過去5年平均との比較)

単位:人

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

### 男性

図表11-25-1



図表11-25-2

(男性 構成比)	過去5年平均	2020年
首つり	72%	74%
服毒	2%	1%
練炭等	6%	5%
飛降り	6%	7%
飛込み	5%	5%
その他	9%	7%

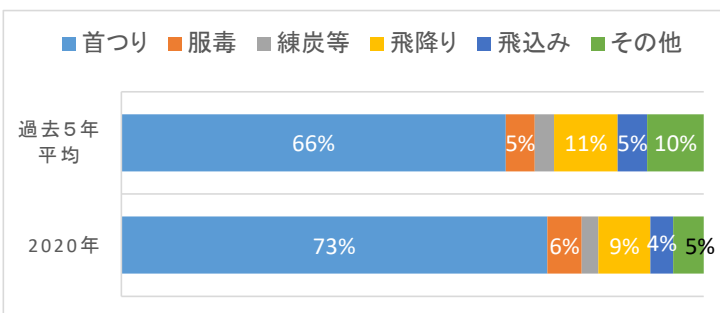
図表11-25-3

(男性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
首つり	593.2	601	7.8
服毒	15.8	8	-7.8
練炭等	51	42	-9
飛降り	51	59	8
飛込み	37.8	43	5.2
その他	75.8	58	-17.8

- 「男性」の自殺手段を過去5年平均の構成比で見ると、「首つり」が72%を占め、次いで、「その他」を除くと「練炭等」や「飛降り」の比率が高い(図表11-25-1,図表11-25-2)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「首つり」が74%と上昇した(図表11-25-1,図表11-25-2)。

### 女性

図表11-25-4



図表11-25-5

(女性 構成比)	過去5年平均	2020年
首つり	66%	73%
服毒	5%	6%
練炭等	3%	3%
飛降り	11%	9%
飛込み	5%	4%
その他	10%	5%

図表11-25-6

(女性 自殺者数)	過去5年平均	2020年	増減
首つり	258.8	335	76.2
服毒	19.4	27	7.6
練炭等	13	13	0
飛降り	42.8	41	-1.8
飛込み	19.8	18	-1.8
その他	38.2	24	-14.2

- 「女性」の自殺手段を過去5年平均の構成比で見ると、「首つり」が66%を占め、次いで、「飛降り」の比率が高い(図表11-25-4,図表11-25-5)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、「首つり」が7ポイント上昇し、「飛降り」や「その他」の比率が低下した(図表11-25-4,図表11-25-5)。

注) 手段不詳は除外している。また、「その他」には、次の項目を含む。

有機溶剤吸引、排ガス等のガス、感電、焼身、爆発物、銃器、刃物、入水等

図表11-26

男女別自殺者の自殺未遂歴の傾向(2020年と過去5年平均との比較)

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

自殺者数(人)

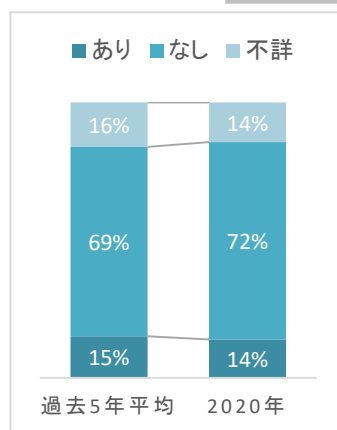
図表11-26-1

		過去5年平均	2020年	増減	増減率
男性	未遂歴あり	123.8	113	-10.8	-9%
	未遂歴なし	568.2	581	12.8	2%
	不詳	132.6	117	-15.6	-12%
女性	未遂歴あり	125.8	157	31.2	25%
	未遂歴なし	229.6	265	35.4	15%
	不詳	36.6	36	-0.6	-2%

構成比(%)

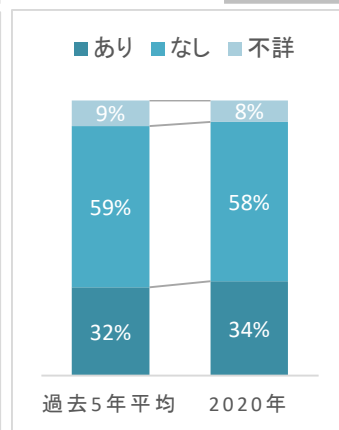
男性

図表11-26-2



女性

図表11-26-3



- 過去5年平均における自殺未遂歴の有無の構成比を男女別にみると、男性は15%、女性は32%が「未遂歴あり」で、女性の自殺者の方が「未遂歴あり」の比率が高い(図表11-26-2, 図表11-26-3)。
- 2020年は、過去5年平均と比較して、男性の「未遂歴なし」が3ポイント上昇し、女性の「未遂歴あり」が2ポイント上昇した(図表11-26-2, 図表11-26-3)。

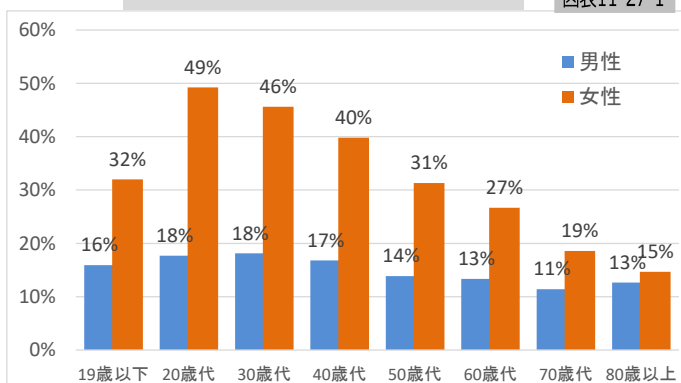
図表11-27

男女別・年齢階級別自殺者の自殺未遂歴ありの比率

(出典:警察庁「自殺統計」より神奈川県がん・疾病対策課作成)

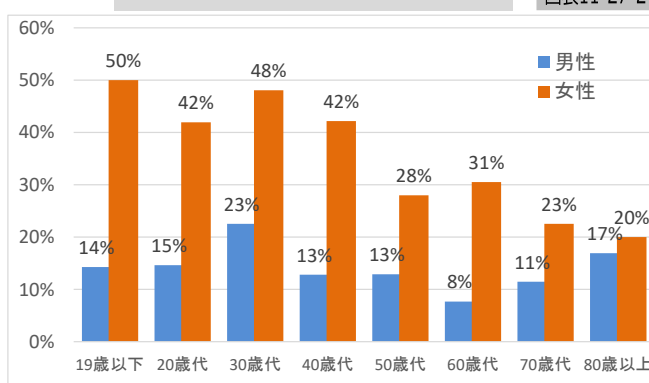
過去5年平均

図表11-27-1



2020年

図表11-27-2



- 年齢階級別自殺者数の「自殺未遂歴あり」の状況について、過去5年平均では、男性は、「20歳代」と「30歳代」がともに「未遂歴あり」が18%で、最も多くなっている。一方、女性は「20～40歳代」の「未遂歴あり」が40%以上で、男性より高い比率となっている(図表11-27-1)。
- 2020年は、「未遂歴あり」が、男性では「30歳代」が20%を超え、また、女性の「19歳以下」が50%となり、過去5年平均より大きく上回った比率となった(図表11-27-2)。

### 全体概況のまとめ

- 本県の自殺者数は、近年減少傾向であったが、2020年は前年比193人増の1,269人と大きく増加した。また、人口10万人あたりの自殺者数である自殺死亡率も前年より2.0ポイント上昇し、13.7となった。
- 男女別では、過去5年平均と比較すると、男性は減少、女性は増加となり、女性の割合が2007年以降最大となった。
- 年齢階級別では、「20歳代」が過去5年平均を大きく上回ったことが特徴的であり、「20歳代」の原因・動機では「勤務問題」と「家庭問題」の比率が過去5年平均を上回った。(※付録参照)
- 職業有無別では、過去5年平均と比較して、男性は「有職者」が、女性は「有職者」「無職者」とも増加したが、特に女性の「有職者」が大きく増加した。
- さらに職業別にみると、過去5年平均と比較して、「有職者」では「被雇用者・勤め人」が、「無職者」では「主婦」が大きく増加した。また、「学生・生徒等」も増加した。さらに、原因・動機別の構成比をみると、「被雇用者・勤め人」は過去5年と比較して、「勤務問題」が上回り、「無職者」では、ほぼ同様の傾向であった。
- 月別自殺者数の状況では、上半期は、過去5年平均を下回り、下半期は上回った。特に、10月に大きく増加した。新型コロナウイルス感染症の新規陽性患者数と月別自殺者数の明らかな相関は見られなかった。(今回は新規陽性患者数との相関のみを分析したが、今後、その他の要因との相関も注視する必要がある。)
- 2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、他都道府県への移動が自粛された期間もあったが、県内で発見された自殺者の県内居住者の比率は、例年と同様の傾向であった。
- また、自殺場所では、過去5年平均と比較して、男女とも「自宅等」の比率が上昇し、自殺の手段では、男女とも「首つり」の比率が上昇した。
- 自殺未遂歴の有無については、例年同様女性の方が男性よりも「未遂歴あり」が多かったが、特に「19歳以下」の女性の「未遂歴あり」が50%と高い比率となった。



**【参考】2020年における自殺者の月別動向の背景について****2020年4月～6月まで自殺者が例年より減少**

- 「コロナ禍における自殺の動向に関する分析(緊急レポート)(2020/10/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、4～6月まで自殺者が例年より減少したことについて、「新型コロナウイルス感染症による死への恐怖によって人々が自身の命を守ろうとする意識が高まり、同時に、自身の命や暮らしを守るための具体的な施策にアクセスできるようになったことにより、4月から6月にかけては例年よりも自殺者数が減少した可能性がある。」と記載している。
- なお、本県における生活支援策にかかる状況では、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業の新規相談受付件数が2020年4月は前年同時期の約6.4倍の7,633件、ピークの5月は8,435件となったが、6月は4,903件となり、その後ほぼ横ばいとなった。
- また、住居確保給付金や生活福祉資金特例貸付の緊急小口資金の支給決定件数が6月にピークとなる等、生活を支える支援策が6月頃に集中して行われた状況がある。

**2020年7月に自殺者が例年より増加**

- 「コロナ禍における自殺の動向に関する分析(緊急レポート)(2020/10/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、7月の自殺者数が増加したことについて、「若手有名俳優の自殺報道(若手有名俳優の自殺それ自体というよりも、それに関する報道)が大きく影響している可能性が高い。」と記載している。
- なお、本県においても、同様に、若手有名俳優の自殺及び自殺報道後に自殺者が増加している傾向が見られる。

**2020年10月に自殺者が急増**

- 「コロナ禍における自殺の動向(2020/12/21)(厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター)」では、10月に自殺者が急増したことについて、「新型コロナの影響により、社会全体の自殺リスクが高まっていること(自殺の要因となり得る、雇用、暮らし、人間関係等の問題が悪化していること)に加えて、相次ぐ有名人の自殺及び自殺報道が大きく影響した可能性(ウェルテル効果の可能性)が高い。」と記載しており、本県においても同様の傾向であったことが推測される。